

第7回胎内市小中学校の適正規模等に関する検討委員会 議事録

1 開会日時 令和4年3月22日(火) 午後2時から午後3時45分

2 開催場所 黒川地区公民館 他産業研修室

3 議 題 (1) 答申書(案)について
(2) 【グループ協議】
(3) その他

4 公開・非公開の区分 公開

5 出席者 委員長 桐生 和文
副委員長 小野 正敏(2グループ)
委員 橋本 定男
委員 宮園 衛
委員 河内 理助(1グループ)
委員 小林 勲(2グループ)
委員 渡邊 俊一(1グループ)
委員 久世 俊介(1グループ)
委員 近 真由美(2グループ)
委員 渡邊 英実(1グループ)
委員 野尻 宰子(2グループ)
委員 中村 祐一(1グループ)

教 育 長 中澤 毅
学校教育課長 佐久間 伸一
管理指導主事 松原 利弘(2グループ進行)
指 導 主 事 山沢 正仁(1グループ進行)
庶 務 係 長 須貝 彰
庶 務 係 主 事 川崎 大介

6 欠席委員 委員 須貝 欽也
委員 小田 大
委員 花野 真也
委員 花野 純恵
委員 岡松 綾
委員 佐藤 志桜
委員 丹後 直子

7 会議資料 答申書(案)

8 傍聴人の数 1人

9 会議の概要(要旨)

(1) 開会

○議長

こんにちは。

本日はご多用の中、お集まりいただきましてありがとうございます。

ただ今から第7回胎内市立小中学校適正規模等に関する検討委員会を開催いたします。

本日は出席者が委員の過半数を超えていますので会としては成立いたします。

なお本日の欠席者は、須貝委員、小田委員、花野純恵委員、佐藤委員、そして丹後委員と5人の方が欠席の連絡をいただいております。なお、この時点で花野真也委員と岡松委員は少し遅れるかなと思いますよろしくお願いします。

それではお手元の次第に沿って進めさせていただきます。

次第の2、答申書(案)について事務局から説明をお願い致します。

○管理指導主事

答申書(案)の概要を説明させていただきます。5枚綴りになっております。全体として3部構成となっております。1ページ目の「1基本的な考え方」、1ページ目の下段「2想定される学校の在り方と実現に向けた方策」、最終ページ5ページ目の「3終わりに」という3部構成となっております。これらの内容について項ごとに説明します。

はじめに、「1基本的な考え方」、これについては以前から示しているものでありますが、前文には市の現状を踏まえて、この委員会の目的が中段あたりに書かれております。この答申はという最後の段落ですが、委員会の性格、議論の方向性を述べさせていただきます。その下に3項目、(1)学校の規模、(2)通学の在り方、(3)地域と学校の在り方という3項目まとめました。

「(1)学校の規模」につきましては、その項の下2行、クラス替えが可能な1学年2学級以上を目安とする。なお1学年2学級が実現しない場合でも1学級20人以上になる事が望ましいと示しました。これは変わっておりません。

「(2)通学については」、最後の行に概ね1時間以内とするが出来るだけ短くすることが望ましい。

「(3)地域と学校の在り方」は議論の中でも大切にしてきた視点であります。その項の下から2行目ですが、児童生徒が日常的に地域と関わる仕組み作りについて配慮する必要があると示しました。

大きな項目の「2想定される学校の在り方と実現に向けた方策」については、これまで6回の委員会を開催して議論を重ねてきた内容をまとめたものです。その項、一番下から2行目くらいから議論の視点を書かせていただきましたが、交流活動、部活動、通学、生徒の社会性、自己有用感、自己肯定感の育成、地域の活性化が委員会の後半で多く議論されてきたと思っております。

めぐりまして2枚目です。ここはアンケートを実施しましたということで書き始めています。市内の全ての中学校の3年生にアンケートを実施しまして、結果は以前資料に示したとおりであります。故郷を想う心や学校独自の文化、伝統を大切にしていきたいという気持ちが浮き彫りにされたという結果でありました。その下段の方から「(1)統合しない場合」

という所から実際に想定される学校の在り方というふうにとらえてあります。

「(1) 統合しない場合」、市内4校現状のまま継続というものについては、前文にはその良さや価値を書かせていただき、その後に課題を3つ上げてその解決の方策を示させてもらっています。中段、項目ア、人数が少ないと人間関係の固定化の問題が起きて社会性の育成に制約が生じかねないということにつきましては、解決方法に交流は欠かせないという話が進みました。答申内に示しているのは、ICTを活用した日常的な交流や学校を超えた交流で様々な力を込めて育成できるだろうというふうを示させてもらっています。

下段の方ですが、項目イ、部活動の在り方についてのことです。これも熱心に議論された内容の1つです。解決方法としては、現在行われている中学校スポーツ教室、もう一つはセンター方式という言葉が出て来たかと思いますが、これは委員会の中で出て来た知恵だと思います。種目ごとに拠点校を決め、その学校で活動を進める方式です。そのスポーツ教室もセンター方式も一筋縄でいかないという様々な課題がありますので、そこはまた知恵を出し合って考えていかなければならないというふうにとらえました。

ウについても、少人数により生じる問題については、やはり交流、同じ学区の小学校や地域との交流が欠かせないであろうというふうにとらえてあります。

統合しない場合については、交流や新しい試みが必要になってくるので、様々な負担が増えます。ここは教育委員会が支援していきますし、いろんな方々の協力が必要であろうというふうに書かせていただいております。この答申書内に示しておりませんが、委員会の中で職員の先生方にも新しい学校の形を作るという意気を感じてもらってという言葉が出たかと思うのですが、工夫し、汗かいていただきたいという声も付けておりました。

②小中一貫校につきましては、新しい形なのでなかなかご理解いただくのが難しかったのですけれども、小中学校が一緒になって一定の集団で学校生活が出来る仕組みということでありまして、課題につきましては、ア小学校中学校の指導方針に相違があるのではないかと、これについては校長先生のリーダーシップのもと、やはり全職員が方向をそろえていく必要があるというふうに書きました。4ページ目にも書いております。課題の項目イには施設設備に必要な部分が改修されるということと、一方残った学校施設の利用方法については対応しなければならないという二つのことを書かせていただいております。

(2) 統合する場合、前文の方で複数学級になり、学級間と切磋琢磨が可能なる。また年度毎の学級形成ができる。新たな人間関係を作る機会が増えるというメリットを書かせていただいております。こちらについて課題を3つ書かせていただいているのですが、地域との繋がりが希薄になるのではないかとという事です。これについては、中段その項の6行目に書きましたが、地域と学校の繋がりを保つ有効な手段になれば、そういうのを工夫して行かなくてはいけないというふうになります。

7行目から、「地域からは地域行事の担い手不足といった状況を改善する為、中学校の力を借りたいという声が上がっている」と書きましたが、これは実際に黒川中学校が黒川の祭りに参加するという計画が実際ありました。参加するという所まで行ったのですが、このコロナ禍で実現が出来なかったということがあります。実際そういう動きがあるという事、ご紹介したくて今説明させていただきました。答申書には書いてございません。

その次の行に統合することにより市内全域の生徒の力を借りることができる。統合すると中条中学校の生徒が黒川中学校の祭りに参加出来るとか、そういうことで市全体として胎内市の中学生という意識が持てるということが議論の中に出て来たかと思えます。

ここの課題のイに移りますが、職員の数が減るということでございます。特に心配されるのが学校の中で1人しかいない教頭、養護教諭、生活指導主任等が1人になってしまうという事です、それはスクールカウンセラーなどの専門職を増やすとか、訪問する機会を増やすとか、学校外の機関との協力が必要になって来るだろうということと、もし統合するのであれば、統合前から中学校間の交流を推進し、準備をする必要があるだろうということが議

論されました。

最後に通学時間が長くなるであろうという課題については、バスの台数確保や運行計画が必要になるだろうと、議論の中では1台のバスで往復させたら時間がとても足りなくなるのではないかという話も出ていました。運行計画の工夫が必要であるというふうな対応を示させてもらっています。

最後になりましたが大項目3ですが、終わりに、ここは初めて示す内容も多いので原文そのまま読ませていただきます。市内中学校において、1の(1)に示す「学校の規模」が維持できる間は、＜課題と方策＞で示したような取組を具体的に進めながら従来の4中学校での学校配置を継続することが望ましいのではないかという意見が多かった。しかし、今後1学級20人を下回り、少子化に伴う生徒数の減少が看過できない状況が続くと予想される場合、次のような点に留意することが大切であるということも多くの委員の共通するところであった。

- ・ 生徒の健全育成、学校の運営に支障が出ないように、そのタイミングを逸することなく、速やかに統合を含めた学校の在り方を検討する必要があること。
- ・ その際は、立地場所及び通学方法、遠距離通学に伴う生徒の生活時間、地域とのつながりの確保等に充分配慮すること。
- ・ 先に示す交流活動や部活動の見直し等の成果を検証し、学校の在り方を総合的に検討すること。

そして、今後胎内市のすべての子どもたちが、ふるさとを誇りに思い、これからの社会を切り拓いていく生きる力をしっかりと身に付けるために、当委員会の答申を踏まえ、市が示す基本方針の実現に向け、行政、学校、地域はもちろんのこと、当委員をはじめとした市民一人一人が自分事として知恵と汗を出し合っていくことが必要であるという共通の認識をもつに至った。とういうことで結んでおります。答申については以上です。

○議長

本当にありがとうございました。今まで私達がこれまで6回に渡って議論してきたその内容を集約させていただいたというふうな事になります。ここに述べられているのは、新たにを取り出して述べたものではなくて、その協議の中でいただいた意見をここにピックアップしてあるものばかりでございます。どうぞよろしくお願い致します。今改めて松原指導主事の話聞いていて、この私達の答申のトップにあるのは地域と歩む、そういうふうな学校づくりを私達は進めていきたいかなというふうに改めて感じている訳でございますけれども、この資料については事前にお配りさせていただきました。そういうふうな中で松原指導主事の説明がありましたけれども、踏まえてご質問等ございましたらお願い致します。

<質問なし>

それではまたこれからグループ協議に移りますが、この答申書の内容については分からないこと等ございましたらその中でお出しただければというふうに思いますのでよろしくお願い致します。これまでと同様にグループ協議に当たっては、小野副委員長さんにはグループに入ってください。学識経験者の橋本委員、宮園委員からは最後にグループ協議を踏まえご意見をいただきたいと思います。よろしく申し上げます。

各グループの進行役はあらかじめお願いしてありますので、時間は2時40分から45分、また様子を見てその時間の方の最後の締めの方、終りを決めさせていただきたいと思いますが、一応目安として40分から45分の間というふうなことでよろしくお願い致します。

そしてグループ協議終了後、第1グループから順にそれぞれの内容をおよそ3分程度で発表いただきたいと思います。本当に今まで話をしてきた協議をしてきた最後の詰め、こうい

うふうな形で出していくたという形になりますので、よろしくお願ひ致します。それではグループ協議に入っていたらこうと思ひます。よろしくお願ひします。

【グループ協議】

○議 長

グループ討議終了してよろしいでしょうか。

ありがとうございます。少し回らせていただいて、やはり多様性、それぞれの色々な立場からの意見をいただいているのを感じておられる。やっぱりこのメンバーで良かったんだなというふうに感じました。ありがとうございます。

それでは若干時間が伸びましたが、これから第1グループから順にそれぞれ協議内容の発表をお願い致します。発表3分程度。でもこだわらないでください。大事な所でございますのでよろしくお願ひします。

○第1グループ

第1グループの進行をしました山沢です。よろしくお願ひ致します。

第1グループは合計4点ご意見をいただきました。

まず1番、基本的な考え方の部分ですが、校舎施設の老朽化という問題を、どこかで取り上げなければならないのではないかと、これによる統合等というスタート地点、出発点があるのではないかとこの所です。これを基本的な考え方に取り入れるのか、それとも統合する場合に取り入れるのか、これはまた検討していただきたいというのが1点目です。

2点目も基本的な考え方の部分です。7行目、こうした現状を踏まえ今後の胎内市における望ましい学校教育環境の整備に取り組むためとありますが、望ましい学校教育環境の整備とは具体的に何を指し示すのか、イメージすればよいのか。この具体的な姿が無いとここが出発点で中学校の適正規模等について、要するに検討し方策を述べているということになるのですが、ここがはっきりした方がよいということで少々説明を加えた方がよいというご意見をいただきました。

3点目は4枚目(2)番、統合する場合についてです。統合する場合の課題と方策、アに胎内市は地域愛が強い、これは地域住民も生徒も同様である。地域愛の育成や地域活性化に学校が果たしてきた役割が大きいとあるのですが、地域愛という言葉がちょっと唐突でイメージが湧かない。これまで例えば故郷を誇りに想いとかそういう言葉が使われてきているのですが、ここで急に地域愛という言葉になるので例えば教育は人を作り地域を作る崇高な営みというふうな基本理念から、生徒のアンケートではやはり故郷に対する思いが強いというような書きぶりに変えた方がよいのではないかと、生徒同様地域住民もそのような思いが強いというふうにするとアンケートや今まで使ってきた言葉との整合が図れるのではないかとこのご意見をいただきました。

最後4点目です。「3終わりに」の部分、これの4行目、しかし今後1学級20人を下回り少子化に伴う生徒数の減少が看過できない状況が続くと予想される場合、この看過できない状況について、例示をしてはどうかと、はっきりとこうですと言えませんが、例えば複式学級の学年が続く時とか、複式学級が生じる際と、というような例示として入れてはどうかというご意見をいただきました。第1グループ以上4点です。

○議 長

ありがとうございます。それでは続いて2グループお願ひ致します。

○第2グループ

2グループですが、重点的に「終わりに」の表現の内容が話されました。4ページ目までは内容、言葉が議論されたことであろうという事ですが、「終わりに」ですが最初の3行、「4校の学校配置を継続することが望ましいのではないかという意見が多かった」という表現について本当にそうだったかという意見が出ました。この3行はいらないのではないかという事であり、議論自体が4校配置が前提であったのではないかと思われるというような表現になってしまうという意見もありましたので、この3行はカットで、しかしを削って、今後1学級20人を下回った場合といった所はどうだろうということでありました。

他に具体的な文をどこに入れるか、この言葉をどこに入れるかはっきりしなかったのですが、今後の検討が入ったときにこの答申を活かしてという表現がどこかに入るといいう事があるだろうという事であり、また「終わりに」は答申を活かして、ある程度方向性を出せるのであれば表現の中で出していくといった方がいいのではないかという事であり、ちなみにもこの中で話されたのは4ページの課題と方策を読んだ時にやはり統合することが魅力的ではないかというご意見が出ていて、そのような文脈があるのに、「終わりに」になったら、継続するよとなると、やはり肩透かしになる。なのでそういう最初の話合いでその事が出たので、やはり「終わりに」の考え方や書き方は変えないといけないというふうな事がグループ協議には出されました。以上です。

○議長

ありがとうございます。それぞれのグループの中で感じ取られた内容、或いは読み込まれてどういうふうな形で答申を出した方がいいだろう。ここはこういうふうにつけた方がいいのだろう、この文言は判りにくいという所、やはり新鮮な目で感じて、そしてご意見をいただきました。ありがとうございました。それではこれらのグループ協議を踏まえて、ここで学識経験者の橋本委員、そして宮園委員からご意見等を頂戴したいと思います。橋本委員、最初によりしくお願い致します。

○橋本委員

この委員会も大詰めになりました。1回目から関わってきて、「ああここまで来たかな」という思いがあります。いろんな委員会に経験があるのですけれど独特などこか連帯感を感じます。やはり故郷を思うということは共通なのかなと、ふと去りがたい気持ちが受けて来ました。私達の委員会の立ち位置ですけど、「終わりに」までの所ですね。それぞれの選択肢について心配な事や浮かんだいろんな思いを出し合うということで選択肢の検討をするという、それぞれの選択肢について意見を率直に出し合う形で、次に教育委員会が結論を示すということに、この検討した事柄がちゃんと反映していく、ということが立ち位置で、私達はこういうふうにあるべしという結論を出す位置には無いのですよね。そのことに第2グループですか、最後の「終わりに」の所がとても重要で、以上そこまでの検討をして、いよいよ教育委員会として結論を出すのであれば「終わりに」の所、つまりちゃんとこういうことを踏まえて結論を出すようにしてくださいということなのだと思います。私達委員は、そういうので「終わりに」を大事にしたというのはとてもそうだなと思います。そうすると「終わりに」までの所で検討した事柄、課題と解決策のいくつかは、それぞれの選択肢毎に出ているのですけれど、その議論を通して共通になったことが「終わりに」に反映するわけですね。そういうふうにして「終わりに」を見た時に、これで充分かというそう云う思いを思った方があったかだと思います。文章としてどうなるかという事は別として、委員長さんもおっしゃったのですけれど冒頭トップとしてあるのはという言い方をされましたけれど、この答申は地域と共に歩む学校づくりということを受けてこの私達の会議の在り方が一つのその姿ですね。この在り方が地域と共に学校を作るという一つの形になるならと思います。従って、行政としてはしっかりと聞く耳を持って、地域の方としては本音として思う

事を存分に出してという、これをどこまでも貫くというか本日をもってこの委員会は終わりますけど、ここのこの在り方はぜひ、どういう形でこれから進むにしろ大事にしてもらいたいなと思いました。感想ですけれど、やはり6回通してはっきりしてきたのは、地域の皆さんが地域を思う気持ち、或いは学校は何かあったら、おれたち地域がちゃんと助けるよと支えるよというそういう意気込みとか、教育委員会の方としては皆さんの声はちゃんと聞きまます活かしますというそういう意気込みとかが本当にひしひしと感じられるものがあります。もう一つアンケートを取ったことによって、子どもたちの地域愛という事がありました、故郷を思う気持ちというのがとてもはっきり出てきていて、正直に言えば1回目の時に皆さんの言葉の節々に地域を思う言葉としてはあまり出なかったです。私思わず何かそこら辺心配なことを言った覚えがあるのですけれど、やはり子どもたちの声なにかと一緒に皆さんもやはり地域への故郷への思いは大変強くて、そういうことがよく反映されているなと思いました。以上が感想です。

もう一つ非常に重要なのは、先生方の負担感、先生方のやる気、先生方の俺たち私達の胎内市の教育はそれを受け持っているその教師として、新しい時代に向かってよしという気持ちにこの答申がなるかならないかですよね。「なんだ大変だな」というふうになるのか、「そうか新しい時代が来るのかこのままではダメだ、これからの子供達のために一肌脱ぐか」というそういう気持ちになるのがとても重要だと思うので、そうすると答申が出た後にどんなふうに現場に受け取ってもらうのか、地域の人に受け取ってもらうのが次の勝負になると思います。

そこで最後にいくつか言いたいのは、共通のどういう形に教育委員会がまとめるにしろ、どうしてもやらねばならないことも結構明らかになってきたと思うのですよね。絶対にこの委員会としての財産として次にどんな形がある。これは頑張してほしいというのは部活のセンター方式。ここで生まれました。コロナ禍の中のスポーツ教室等でいろいろ統合的な試みがあったようですけれど、今後センター方式については具体的に詰めていっていただきたい、それはどういう形になるにせよ避けて通れない。それは私達のこの委員会としてはっきり出した提言です。これが1点目。

2点目は今後どんな形になるにしろ、本当に明らかになったのは交流です。どうしようもない、絶対にこの交流は避けられない、どんな立ち位置になるにしろ学校間交流、それから地域との交流あるいは小中の交流。この交流がものすごいキーワードとして私はこの委員会の中で出てきているなと思います。何やっても交流の中に行きつくのです。どんな形になるにせよ学校間の交流、どういう交流をやるにしろそれが先生方の負担になりますから、よし交流をやるしかないなというふうに先生方がこう思う様にどうすればいいのかなと課題があるのでしょうけれど、私達のこの委員会のひとつの提言として、交流を活発に、それは自己有用感とか自己肯定感とかあるいは社会性とかいろんな事を考えて、集団の切磋琢磨とか何を考えるにしても交流に行きつくのです。これはもうこの委員会がはっきりさせたことだと思います。

それからもう一つ、後半になって出て来た故郷への思いです。この今黒川中がコロナ禍で参加できなかったお祭りという話がありましたが、この胎内市で生まれて胎内市の今中学生としてそこにいて、やがて羽ばたくというその子どもたちが、どこかに故郷を持つというその事の大事さが統合問題として逆にとてもこう見えてきて、これも私達の委員会の譲れない大事にしてもらいたい点だと思います。やはり子どもたち思っていたのですよね。すごい私達はいいいことをしましたと感じました。以上が譲れないと私が思う点であります。

おまけに一つだけ、中学生もアンケートを通して本当に思ったのですけれど、生徒たちは大人が進めていくことについて君たち何か意見があるかなという形でのアンケートですよね。今後は違うかなと思うのですよ。中学生も主役になってほしい。さすがに委員会の中に中学生が入るとするのはちょっと時間的にもいろんな意味で制約があって、でもその中学生

がこの新しい学校づくりに主役として入る。つまり大人の中に私達はこう思うのですよという中学生が言える場が欲しい。上目線で何か言いたいことはないか、そうか君たちはそういうことを考えていたのか、分かった大事にしようではなくて、君たちどう思うってこの主体者として聞いて、中学生もいやそうは思わないですよというような事を言えるという、いろんな学校が常にやっていた様な、特に高校なんかやりました。つまり子供、親、で2者、地域で3者、行政が入って4者になります。この4者で例えば答申が出た、教育委員会としても結論をほぼ出すとこういうふうに進むのだとなった時に、いろんなことを中学生は思うとおもうので、それをちゃんとアンケートではなくて生徒の代表がいて、保護者の代表がいて、地域の代表がいて、行政もちゃんとして、そしてきちんと意見を言って、語り合う形が私は最後自分の夢というか、ここにせっかく参加させていただいたので、最後に提案にしたいと思います。以上です。

○議長

ありがとうございました。それでは続いて宮園委員よろしくお願い致します。

○宮園委員

私は第2回目から参加させていただいて、この1年余りの状況の中で、学校の統廃合の問題ですよね。そういう所に一緒に考えさせていただきました。いま橋本先生もおっしゃったのですけれども最初ちょっと感想めいたという話で私もちょっとお話させていただきたいと思うのですが、これはあまり記録に残さないでほしいなと思う所なのですが、別に変な事を言う訳ではないのですけれども、私、新潟大学でまだどこに就職できるかもわからない、そういう学生の頃に、1985年ころでした。まだ海の物とも山の物ともわからないそういう状況の中で、大学院の指導教員の院生に向かって言った言葉がすごいずっと残っていました。どういうことを言ったかという、今はとても安定して大学で研究生活が出来る落ち着いたと、でももし君たちが大学に就職することができるようになったら、その時は大きな変化の中の大波を被るだろうと、そういう状況の中で大学生活を送ることになる。だからそれなりに覚悟しておくようにと言われました。その数年後、私はたまたまこの新潟へ来たのですけれども、そうすると確かにそうだったなと思います。この30数年間の中で本当に激変して世界が変わりましたけれども、大学の教育環境あるいは学校の教育環境、どんどん変わりました。この平成の時代というのは例えば大学だったら1991年に大学の設置の大綱化、設置基準の大綱化があったので、今まで横並びでいっていたのですがそれも大学の方で変えられるようになってそこからどんどん変わってきて、この大波というのはこういうことだったのだなというふうに、ふり返ってみて実感しています。そうした時にこういう大きな変化が来た時に、先を見通すという事ですよね。そうするとそういう大きな変化が押し寄せてくるということは自ら変えて行けるそういう時でもあるのですよね。変える意思があれば、何かを改革して行けるというか、そういう時代状況でもあるというか、何もしないと尻すぼみになってしまうというか、そういう時代なのかなというふうにこの30数年間を振り返ってみた時に本当に実感しています。特に今回1年間の中で議論してきたのは児童生徒の減少ですよね。そういうのはやはり1番根本にあって、そうした時に学校とか地域をどうやって作っていくのか。あるいは新しい学校を作っていくのかという、そういうことが目の前に課題としてある。そして数年経った時にもっと厳しい状況がやってくる。それは特に人生に関して先が見えているというか、そういう展望の中で今回の議論が始まっていったところだったのかなと思います。

一つに今回いまご意見いただいた中で、確かにこの答申案の最後の「終わりに」の所ですよ。最初の3行の所ですけれども、ここで望ましいのではないかという意見が多かった、本当にそうだったかという意見がありましたよね。それと重なってくると思うのですが、

多かったというより、そうなってくると何かいいのかというそんな所で落ち着いて、この委員会の中での議論がそこに収束してしまったかのように印象づけてしまうのではないかと、例えばそういう所、継続の可能性が議論されたという、しかしというふうに難しいそういうふうに捉える事も出来るかなと、この3行を抜いてしまうと前の部分の答申の内容の継続と可能性とかありますよね。統合しない中学校の現状を継続というかここら辺の所が抜かれてしまってやはりそこは一応そういうふうに明記しておいた方がいいのかなと思うのですよね。ただ多かったというふうに確かにそういうふうに言えるかどうかというのはやはり慎重に議論した方がいいのかなというふうに私も思いました。

それともう一つ具体的な記述でいくと望ましい学校教育環境整備というかここについては確かにどこからこの文言が出て来たのか、或いは何を基準にして私達は議論してきたのかということ、統廃合の問題という所が、何を持って望ましいというふうに考えているのかという所が明記されていないとそういうご意見だったかと思うので、それと1ページ一番最後から2ページ目の最初の辺りに交流活動、部活動、通学、社会性や自己有用感、自己肯定感と言って、或いは地域の活性化とたぶん議論の中でそういうことが視点として浮かび上がってきたというそういう意味合いがあるのかなというふうに、先ほどの話を伺って考えるとそういうふうに捉えられるのかなという思いました。どこかにそれが明示されているということは最初からあったわけではなかっただろうというふうに思うのですが、そういうことで先ほどの整理が必要かなというふうに思いました。

この最後の方ですが、これは橋本先生のおっしゃったのですが、やはり提言性があるわけですね最後の所は。この答申の役割として一つはここで答申を出したからそれで終わりではなくて、多分これからの取組とか議論のスタートがここから始まるというそういう意味合いがけっこうあるのだろうというふうに思います。そういう意味でスケジュールが欲しいなというところはあります。今後どういうふうに議論していくのか、たとえばここはやはり見直す必要があるというように、どれくらいのスパンでやっつけようとするのか。だけども少しデータを見ていくと、だいたいこれぐらいだっているのが見えていたりしますよね。そして今後1学級に20人を下回りと書いてある。大体どういうことが予想されるか。だからそういう事を踏まえて私達はこれから議論を始めましょうとか、そこへ向けて生徒そして教職員そして地域の保護者、地域の人たちが一緒に考え、そういうスタートの地点に立ったのだというようなそういう意味合いがそこに出てくるのかなというふうに思います。そういう意味での未来の地域と共に歩む学校づくりですね。この出発点に立つような事がそこに向けてというのかなというふうに思います。

それでもう一つ、これも橋本先生とちょっと重なるのですけれども、交流活動これはやはり必要だろうと思います。これからどんどん交流必要だと、それは交流活動の価値というのはやはり何か新しい物が生れてくるというか、それは交流する訳だからそれはたぶん言葉で文化で異なる考えの人と、異なる人間の人と出会ってという事は日常を破って来るものだろうと思うのですよね。いつも見るというそういう意味ではなくて、ちょっと違う所で私達出合いがあって、そうすると今まで考えなかったような事とかそういうことを刺激されて、その事によって新しい物を生み出していくという、そういうきっかけとか新たな気付が生まれてくる。たぶんそういう物が交流の大切な役割なのだろうなというふうに思います。そういう意味で交流活動が期待していいのかなというふうには思います。

最後になりますが、やはりこれからの学校を作っていく時に、子供、教職員、そして大人、共有する学校、教育目標を必死になって考えるというか、その時大事な事は子供の社会の問題を私達を取り上げるにしろ、でもそれは大人の社会の問題と相似形だと私はいつも思うのです。やはり大人自身が社会人になって社会をどうしようかというふうに考えていく、その姿を見て子どもたちもまた触発されていく、そういう所があったらなというふうに思います。ですから大人のそういう姿を見て苦勞を学んでいくでしょうし、そしてもう一つは対話をし

ていくという事があるだろうなという事ですね。この対話をしていくというのはいろんな対話があるでしょうし、学校間もあるでしょうし、大人と子供との対話もあるでしょうし、そういう事がとって新しい物を作り出していくそんな所に繋がっていけばいいのかなというふうに思います。

橋本先生が熱く地域づくりと攻めきったこの委員会がというふうにはずっとおっしゃっていたので、やはり胎内の街づくりと申しますか、そういうことと子どもたちをどう育ていくのか。たぶんそれは一世代で終わらないかもしれないし、二世にかかるとも知れないと思うのですよね。だからそれを本当にしっかり受け継いでいくような、こういう捉えがいまはじまっていくのかなと思います。そういうところでこの委員会が出発点として、とても大事な役割を果たしていくのかなというふうに思います。ありがとうございました。

○議長

ありがとうございました。本当に私達が考えてきた、そしてこの委員会の立ち位置というものを二人の学識経験者の委員さんの方から改めて述べていただくことにはありがとうございます。また私達への思いも感じていただいて非常に私も聞いていて嬉しくなりました。ありがとうございました。

それではここで若干いま1グループ2グループから出た内容について、他の委員さん方どう考えて行けばいいのかという事を考えてみたいと思います。全体的にいただいた形では私のイメージ、受け止めとしては大きな方向性の変更はないのかなというふうに受け止めさせていただいたのですけれどもよろしいでしょうか。

この方向性でよろしいかなというふうに受け取ったのでございますけれども、終わりにを少しやはり考えていく必要があるのだろうというふうな事で、それは1グループ、2グループ出ておりましたが、

それでは最初に1グループの所なのですけれども学校舎の老朽化、そこから始まったので、その所けっこう根本にはそれがあるだろうと、それをやはり入れていった方がいいのだろうというふうな事でございます。ただ入れる場所は基本的な考え方がそうなのか、あるいは終わりのところに配慮事項として入れていくのかということはあるとは思うのですけれどももそれを入れていくというふうな事、いかがでございますか。確認です。

それではそれを入れるという事ですね。確認した文言を入れるという事ですね。

それから望ましい、最後の方の宮園委員から説明をしていただいた訳ですけれども、その最初の所の部分にあります、基本的な考え方に述べられている望ましい学校教育環境、これはちょっと分かりにくいのだと、望ましいとはどういう環境を目指してきたのだと、最初からあったというのではなくて望ましいというイメージがこんなのだとあった訳でなくて、ちょうど宮園委員の話ですと、議論の視点にあるそういうふうな内容がやはり望ましいというふうに次第に出来上がってきたのではないかなと、その辺がうまく具体的な形でイメージできるといいなというのがあった訳ですけれども、そんな所は若干取入れられたらというふうなことで、そこはいかがでしょうか。

その方法でよろしいですか。分かりやすい望ましいという、なかなか難しい所ですけれども、こういうふうに明確に出してというの、だからそういうふうな分かりやすさをここで述べて行くというふうな事でございますね。

それから4ページにあった地域愛、それが今後地域愛という言葉、ちゃんと分かりづらいというふうな事でこれは橋本委員からも出ていました。宮園委員からも出ていました。故郷は誇りに思うだとか故郷を愛するだとか地域を思う気持ちだとかそういう風な形、けっこう分かりやすくという風な事。それもいかがでしょうか。そういうふうな地域愛というよりアンケートだとかそういう風な事が出てきた文言の方がより分かりやすい。私自身もそっこの

方が逆に故郷を思うだとかそっちの方が思いが逆に伝わるのかなと思ってね。柔らかさがあるってそんな風を感じておりますけれども、そういうふうな所が一点。

それから終わりにが非常にそこであった訳ですけれども、一つ大きなことは5ページの終わりの前段の3行ですけれども、これが果たしてこういうふうな望ましいのではないかという意見が多かったって、ここで結論づけた内容でいいのかというふうなのがございました。これを取ってしまって、しかしまで取って、今後1学級20人を下回りというふうな所ですけど、そこから始まってもいいのではないかというふうな内容と、いやそうするとこういうふうな持論をそのまま継続していくのだという議論が見えなくなってしまうとそれも確かにやってきたと、だからここは残して、2行目の所のそこも文言を語尾の所を変えていった方がいいだろうと、学校配置を継続の可能性が議論されるというふうな形の方がいいだろうと、そこについて皆さんいかがですか。かえて取ってしまった方がいいのか、或いはこういうふうな持論は実際出たのだから、ただその事が望ましいという意見が多かったというふうな状態が定かではなかったのではないか。だから文言を変えると語尾をですね。継続の可能性が議論されたというふうなそういう風なニュアンスでも、この辺皆さんいかがですか。新たな見ていただいて、

○渡邊委員

議論の文言で良いと思いますけれど。

○議 長

ここは残してですね、そうすると、前段にも残っているのがくるから議論されるという事で、意見がお伺いしていたというふうなそういうふうな結論付けではなくて、そういうふうな、いかがですか。

○近委員

1の(1)に示すとあって、1学級20人以上って書いて、望ましいとあるのですが、黒川中学校の1年が今19人なので、すでにこのところが望ましい所に入ってないので、この言い回しも1の(1)に示す所も気付いている人は気付いている、

○議 長

いまだに1を出してきたのに20人のここは今維持できない状態にあるのだと

○近委員

できる間はなのですけれども出来て居ない学年もあるので、この文言ももうちょっと、

○議 長

維持できる間ではないのだと、ではここで示した学校規模の20人を下回っているのもあるのだと、ここで文言の触れ方ですね。それと関連してくるのが看過できないというところが出てきたかと思うのですが1グループの所で、2段目のしかし今後1学級20人を下回り、今の状態ですね。少子化に伴う生徒数の減少が看過できない。看過できないのはどういう状態で看過できないとするのか。それを例としてここに出しているとより分かりやすくなると、ちょっと看過できない例ですけど、複式学級でよろしかったでしょうかね。

○中村委員

かなり複式って厳しいですよ、なるまでには。たぶんよほどのことが無い限りならないというか。

○議 長

中学校の複式。

○委員

私も後でそう思って8人以下ですよ。

○議 長

その時は統合になっている。

○中村委員

全校でも32人とかしかいない訳ですよ。20何人か。例としては複式って激しいと自分でも思っています。

○議 長

極端かもしれませんが。そこへ行くまではね。

それでは今こういうような文言がいいのではないかという文言はありますでしょうか。

それでは考えて。1行目の1の(1)に示すこのから、維持できる間は、これはもう維持できていない状態に今あるのだから、その整合性を図る文言にする必要があるという事です。

そしてもう一つのしかし看過できない状態が続く。看過できない状態はアバウトなのでは

○橋本委員

ここは看過できない状況にあるので、現状を続けるという、もう一つの結論の姿が選択肢の一つのなのです。だからここは、どっちみち私達の答申を受けて教育委員会が方針を出すのだから、これ以上の議論を踏まえて方針を決定する。その決定にあたっては次のことを重視すべきという、何か上の方に書けば書くほど選択肢をとっちゃうから、ここは「継続になる」のか「統合に向けた議論になる」のかが結論なのだから、それを出すための答申なのだから、ここは結論めいた事を一切を言わない方がいい。

○議 長

そうすると上の段はよろしいでしょうかね、残しておいて。ただ学校の環境を維持できる間というふうなのは、今後ちょっと変えなければならぬ文言になるのでしょうかけれども、或いは

○橋本委員

だから看過できない状態の状況になるまでは現状の維持のというのは、もし書くのであれば、か、或いは何とかか、又は何とかかで、その考えられる答申の最終答えを煮詰まったものが、もし載せるのであれば可能性があるのはみんな載せない。これ1個だけ載っているからおかしい。

○議 長

いかがですか。上の方は今言った形でこれは方向性云々ではございませんので、そのままの方針で大丈夫だろうと思うのですが、1、2行目、ただ1の1に示すそういうふうな状態があるのだと、ここでのところをもう少し別な文言にできないかという事です。

そして宮園委員さんがおっしゃった学校継続の可能性が議論されたというふうな言葉の

文末です。

そしてしかしからは取ってしまって、以上の議論を踏まえてという形で教育委員会で方針を決定して、そういうことをだから要望するだとか、そしてその際以下の点には充分配慮してもらいたいというふうな内容で・・・というふうな形。

大丈夫ですか。

よろしいでしょうかね。そんな方向で、ここの所を文言を変えてというふうな事でございます。

そしてここに教育委員会でこの答申を受けてしっかりと整備していただくというふうな所ですね。そういうふうなのが分かるというか見えるというふうな文言を

○橋本委員

私を持っている資料の答申の中のその言い方で、何とかするよう配慮されたい、或いはに努める事、取り組む事とか配慮すべきである、そういう形で

○議 長

最後まとめですね。持って行き方、そういう文言、そんな内容の文言でよろしいでしょうかね。

それでは文言を整理しながらというふうな事になって行くだろうと思いますけれども、この形でいかがでしょう。

この後今いただいた文言等については正副委員長に一任させていただいて、そしてその文言の訂正した正文になりますけれども今度は、それを委員の皆様方にお出しし、お送りしてそこで書面で承認をいただくという形で行けるのかなというふうにも思っているのですけれども、今のこの内容ですけれどもいかがでございましょう。

よろしいですか。

それではそういうふうに正副委員長に文言の修正の所を一任させていただいて完成した答申書につきましては皆様にお送りして、そして承認をいただくと、もしそこでここはダメだというふうな文言が出てきたらその時点でお受けして、再度お出しするというふうな形になろうかと思いますが、そんな形でご理解いただけるとは思いますよろしいでしょうか。

よろしくお願い致します。

それでは最初に予定されておりました8回目の委員会は無しというふうな事で、今の形でさせていただきたいと思いますがよろしくお願い致します。

それでは、これで以上の協議終了いたしました、ほか委員の皆様から何かございますでしょうか。

それでは事務局の方から何かございますでしょうか。

○事務局

7回に渡りありがとうございました。今ほど委員長が申し上げたとおりの手続きを進めさせていただきまして、また皆様とやりとりさせていただきたいと思っておりますけれどもよろしくお願い致します。それでは会についてはこれで終わりになりますが、本当にありがとうございました。

○議 長

それでは、閉会の挨拶を小野副委員長の方からよろしくお願い致します。

○副委員長

どうも皆様お疲れ様でございました。3月を終え4月を迎えるこの時期になりまた急に気温が下がってきまして今日お寒いことで申し訳ありませんでしたが、最後まで熱い議論をしていただいていたというふうに考えております。

皆さんのお話を聞いていると一昨年の11月からの会議でしたが、すごく学校を愛されている、学校のことが好きなのだという意見が多かったという印象を持っております。それだけ胎内市の子供達のことを考えてくれている大人がいるという事は子供は幸せなのだろうというふうに思っております。

2ヶ月に1回ずつというサイクルでしたが、あっという間の1年ちょっとだったような気がしております。せっかくこういう機会での会議に参加されたわけですので、今後どのような形で進んでいくのかぜひ皆さんの方からも注視していただいていたければというふうに思います。

以上を持ちまして委員会すべてを終了させていただきます。

本当にありがとうございました。